
お守り

QQQ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お守り

【Nコード】

N9718F

【作者名】

QQQ

【あらすじ】

普通の生活。幼なじみと交わした言葉。忘れないよ。永遠に。永遠に忘れない。忘れたくない。そう思いたかった。思っていたかった。殺してでも・・・・・・・・・・思っ。痛かった。

意識が遠のいていく。

誰かが叫んでいる。でも、聞こえない。

聞こえない。聞こえない。聞こえない。聞こえない。聞こえない。聞こえない。聞こえない。聞こえない。聞こえない。聞こえない。

何も、聞こえない。

「これあげる。大切にしろよ亮」

幼なじみの藍坂蘭「あいさからん」が、袋を差し出してきた。

「何だよコレ」

「いいから貰っとけ」

袋を受け取った少年・橘亮「たちばなりよう」は不思議そうに中を見ようとした。

「あっ、だめだよ。まだ開けちゃだめ」

「何で」

「何でも」

不満そうに袋をかばんにしまう。

「開けるのは明日。明日に開けて」

「ああ」

しぶしぶ納得して帰りの支度をし終わった橘は、教室を出た。

「何が入っているのかな」

「開けるなって言っているでしょ。明日よ、明日の朝」

「はーい」

こうしていつもと変わらない日常が終わった。

永遠に・・・・・・・・

翌日の朝。

「さて、何が入っているのかな」

袋の中身を開けた。

「なんだコレ？」

袋の中には、一つの『お守り』が入っていた。

「何でこんなのが入っているんだ」

不思議に思っていると、学校に行く時間が迫ってきた。

「やべ、行かなきゃ」

何でこんな物が入っているのかは、藍坂に聞けば分かるだろうしな。
今は、遅刻をしないように走るだけだ。

見渡りの悪い交差点。

学校に向かって急いでいると・・・

前方からトラックが・・・

「痛い。痛い。痛い。痛い」

トラックに轢かれた『藍坂蘭』が、何度も、何度も「痛い」と言っていた。

「痛い。痛い。痛い」

誰にも聞こえない小さなこえで。

「誰か来てくれ」

誰かが叫んでいる。

誰かが私を見ながら叫んでいる。

『橘亮』が私を見ながら、にっこり笑いながら叫んでいる。

「な、何で」

「3年前、俺の彼女に何をやったか考えてみる」

昨日。

「開けるのは明日。明日に開けて」

「ああ」

橘は、席から立った。

「そうだ。これ、俺から」

「何コレ」

袋を渡された藍坂は、中を見ようとした。

「だめ。開けるのは、俺のと一緒にの時間に」

「朝に開けろって。んゝ、いいわよ。朝ね」

「残念だったね」

橘は、言った。

藍坂は死んだ。

笑いながら。

その日の帰り道。

「やっと、やっと殺した」

見渡しの悪い交差点。

トラックが・・・

聞こえない。聞こえない。聞こえない。聞こえない。

何にも聞こえない。

橘亮は死んだ。

3年前。

「あなた、邪魔なの。亮には必要ない。」

刺した。橘の彼女を刺した。藍坂が・・・・・・・・

「私が死んだら、あなたも一緒に死ぬの」

願いが叶うお守り。願えば何でも叶う。

幼なじみを殺すのも。自分が死んだら愛する人も死ぬのも。

全て叶う。

それが語り継がれたのは、その5年後、10年後、いつの日かも分からず語り継がれる。

呪いのお守りとして・・・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9718f/>

お守り

2010年10月28日09時27分発行